

東京バッハ合唱団 月報

[第 651 号] 2016 年 9 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3-47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 651

September 2016

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

盛り沢山な、2016 年夏のプログラムを終了

音楽することの喜び

5 月の第 113 回定期演奏会 (5/28、府中の森芸術劇場) 終了後、例年のとおりの諸ルーティン (年度総会、創立記念懇親会) をこなして、今年は 3 年ぶりとなる野尻湖合宿も行いました。

7 月、8 月の諸行事をふり返りつつ、秋からの“新学期”に備えましょう。

＝創立 54 周年記念演奏会・懇親会＝

- ・創立 54 周年記念特別演奏会「器楽アンサンブルとオルガンと合唱によるバッハ」7 月 2 日、荻窪教会
- ・創立 54 周年記念懇親会 同日、同会場

「器楽アンサンブルとオルガンと合唱によるバッハ」

白井 均 (団員: バス)

東京バッハ合唱団が「創立 54 周年記念」として表記の演奏会を、荻窪教会で 7 月 2 日、土曜日、午後 2 時から持ちました。かつてはプロの楽器奏者、オルガンとともに演奏会を持ったことは何度かあったが、今回のようにアマチュアのヴァイオリニストの中川典子さんとチェリストの木島洋一郎さんに加わっていただいて、オルガニストの石川優歌さんとともに演奏ができたことは画期的だったような気がします。

そもそもアマチュアの合唱団である私たちなのだから、全てを素人で演奏して当然なのだが、やはり聴きにきてくださる方々に、より良い音楽を届けるためにはプロの音楽家に入っていただくのは大いに助けになる。時にはその魅力で演奏会が成り立っているような場合もある気がします。そのような中で今年 3 月から週に 2 回、月曜と土曜の練習に、ほとんど (府中の森芸術劇場での第 113 回定期演奏会の 5 月を除いて) 全てに、お 2 人が重い楽器を横浜のご自宅から運んで参加して下さったことは、(失礼ながら私たちの年と同じくらいの体力を考えても) 驚くべきことでした。またその技倆においても回を追うごとに完成度が高くなり、歌う私たちに練習に参加する喜びを味わわせてくれました。そのために個人的に練習場所も借りてお

られました。本当に音楽を楽しむためにはそうした努力が必要だと教えられた次第です。その上交通費だけでもと申し上げたのですが一切お受けにならず手弁当で助けて下さったのです。

演奏会後の懇親会でも、大変謙虚にも、一緒に演奏されたことを楽しかったと感謝して下さり、お願いした私は身の縮む思いでした。12 月にもご一緒にと、さっそく大村先生がパート譜を用意されましたが、まだ承諾のお返事がいただけていません。今回で懲りてしまったのでは? と心配しています。もう一度、12 月の荻窪教会で喜びのクリスマスを体験させていただきたいものです。楽器伴奏付きで練習のできる夢がもう一度叶えられますように。

第 114 回定期演奏会 ご案内



●アンナ・マクダレーナは、どこ?

| 日時 | 12 月 3 日 (土)、午後 2 時開演

| 会場 | 府中の森芸術劇場ウィーンホール

| 曲目 |

・カンタータ第 14 番《かたえに 主いませずば》日本語演奏初演

・『アンナ・マクダレーナ・バッハの音楽帳』より、10 曲の音楽作品 BWV 299, 508-518 日本語演奏初演

・カンタータ第 82 番《われ 足れり》

・カンタータ第 140 番《目覚めよと呼ばわる 物見の声》

| 演奏 |

Sop 光野孝子、Ten 鏡 貴之、Bar 山本悠尋

Orch 東京カンタータ室内管弦楽団、Org 草間美也子

Cond 大村恵美子

| チケット発売開始 | 9 月 15 日 (予定)

創立 54 周年記念演奏会に参加して

清水 英子 (団員：アルト)

創立 54 周年、おめでとうございます。

54 年の長きに亘ってずっと主宰して下さった大村先生のご努力とヴァイタリティーに改めて深い敬意を表します。

私は昨年、ひよんな事から入団させていただきましたが、こんなにもエクサイティングで充実した 1 年間はあまりなかったと心から感謝しています。ただバッハの音楽が好きだけの私は、皆さんについて行こうとかなり必死の思いで練習を重ねてきました。経験豊かな先輩方の適確で、頼もしい言葉に何度も助けられ、ほぼ同じ時期に入団した方達とはお互いに切磋琢磨しながら、励まし合うとても良い関係が築けていると感じます。

ソロの曲を歌えるのは「教会コンサート」ならではの大胆不敵(私にとって)な楽しみではありますが、今回はヴァイオリンとチェロの伴奏のおかげで、のびのびと気持ち良く歌うことが出来ました。練習の時から打ち上げまでずっと付き合ってく下さった中川さんと木島さんのお 2 人に厚くお礼を申し上げます。会場の雰囲気も家庭的であたたかく歌いやすかったです。

懇親会で全員の発言を聞いていて、それぞれの方の合唱団に対する思い、何かお役に立ちたいという心意気、そしてなによりもバッハのカンタータに対する理解と愛情の深さに目を見張りました。日頃は練習が終るとそそくさと別れてしまうので、他のパートの方の事はよくわからないのですが、いろいろな分野で専門的な知識をもっていらっしゃる方も多い様子で、個性豊かな興味深いメンバーに、また、新しい世界が広がったとワクワク感でいっぱいです。

これからも、大村先生はじめ全員が健康でずっと一緒にバッハを歌っていきたくと心から願っております。どうぞよろしくお願い致します。

< 終了報告 >

2016 年 7 月 2 日 (土) 14:00 開演

◆ 器楽アンサンブルとオルガンと合唱によるバッハ

- ・カンタータ第 81 番《主イエス眠り いかによきわが望み》
- ・カンタータ第 148 番《み名の栄光を讃えよ》
- ・アリア《かたえに 主いませば》(AMB 音楽帳より)
- ・カンタータ第 140 番《目覚めよと呼ばわる 物見の声高し》
| 演奏 |

ヴァイオリン：中川典子、チェロ：木島洋一郎
リコーダー：東京バッハ合唱団団員 3 名 (BWV 81)
オルガン：石川優歌、合唱と斉唱：東京バッハ合唱団
指揮/訳詞：大村恵美子

◆ 創立 54 周年記念懇親会

同日 15:30 開始、参加費：1000 円 (軽飲食つき)



■ 神山教会、「湖畔のバッハ」会場。撮影=団員・千葉光雄 (8/6、15:10)

= 野尻湖 2016 =

3年ぶりの野尻湖合宿演奏会

加藤 剛男 (団員：バス)

いよいよ待ちに待った野尻湖合宿演奏会が、開かれることになりました。毎年のように、野尻湖国際村(野尻湖協会 NLA) 音楽担当コーディネーターのボウデン先生からは、「神山教会」(現地では「オーディトリウム」)での「バッハ・プログラム」の演奏会開催依頼をお受けしながら、東京バッハ合唱団の諸事情で、ここ数年お断わりし続け、心苦しく思っておりました。昨年夏は、福島県南相馬市で地元合唱団との演奏会が開催され、その準備も含め野尻湖には行くことができませんでした。それが今年は久しぶりに復活し、演奏会を開くことができました。

今年の野尻湖合宿演奏会は例年と大きく違いました。“もっと多くの野尻湖の地元の方々に、バッハの音楽を聴いていただきたい”という私どもの思いをどのようにして実現するかが課題でした。団員の実行委員の方々の独創的な企画・立案により、国際村での演奏会だけでなく、前日に、地元住民の参加によるワークショップを開催することになりました。事前の打ち合わせを、信濃町教育委員会の小林元太郎様(信濃町公民館館長)、丸山和也様(生涯学習係係長)、同前任の長安史恵様(現、一茶記念館)方と入念に行い、以下の内容が決められました。

①ワークショップの会場は、信濃町公民館・野尻湖支館とする。②広告・宣伝としてチラシ・ポスターを作成し、町立信濃小中学校(2012年、町内の1中学校と5小学校が合併してできた小中1貫校)の全生徒およびご家庭にチラシを700枚配布する。公民館・一茶記念館・観光案内所にチラシを250枚配布する。③野尻湖および公民館周辺に、ポスターを掲示する。④信濃毎日新聞に記事広告を掲載依頼する。⑤信濃町の「教育委員会」と「公民館」に後援名義をいただく。⑥地元近隣の合唱団、ママさんコーラス等へ参加者の呼びかけをはかっていただく。⑦合唱指導はバリトンの山本悠尋先生、ワークショップ進行は団員の大村健二さ

んが担当する。⑧ワークショップ参加申込者には、あらかじめ課題曲楽譜を贈呈・送付する。⑨後半にミニコンサートを開き、翌日の神山教会コンサート曲目の紹介上演とともに、前半で仕上げた課題曲を全員で歌って終了する、等々。

このたびの野尻湖合宿演奏会の、全体の概要は次のようなものでした。

(1) 合宿期間と滞在／練習会場

8月4日(木)～7日(日)

会場:野尻レイクサイドホテル(旧・野尻湖ハウス)

(2) ワークショップ“バッハさんをご存じですか?”

8月5日(金)午後6時30分～8時30分

会場:信濃町公民館野尻湖支館

(3) 野尻湖神山教会演奏会“湖畔のバッハ”

8月6日(土)午後4時～6時

会場:野尻湖国際村 NLA 神山教会

(4) 合宿演奏会延べ参加者:36名(団員33名、指導者3名)

ワークショップ当日となりました。初めての試みであるため、ワークショップ参加者がどれだけいらっしゃるのか、まったく予測できない中で開演を待ちました。1人、2人と会場に参加者が来られ、何とソプラノ4名、アルト5名、テノール3名、バス2名、見学者3名と、全体で17名の参加者がありました。

その中に、30歳の身体の不自由な息子さんを抱きかかえて来られた男性がおられました。息子さんの希望で、ワークショップに来られたとのことでした。会場に来られた時に息子さんは、大きな声を発し続けておられました。ところが、ワークショップが始まると、すっかり静かな身体の状態へと一変しました。大村健二さんによるユーモアあふれ、また周到な解説に始まり、山本悠尋先生によるカンタータ147番の有名なコーラル《イエスわが喜び 心の慰め》(別名「主よ、人の望みの喜びよ」)を素材とした合唱指導となりました。

柔軟体操を交え、40分程の山本先生の合唱指導で、団員を含む総勢約50名の新設合唱団は、みるみるヴォリュームのある内容豊かな合唱団へと変貌していきました。先ほどの息子さんも大きな口をあけて、一心に合唱を聴いておられました。バッハの音楽は、文化を越え、年齢を越え、身体の状態がどのようであっても、万人に感動を与え、共鳴する力、喜ぶ力、魂に響く力を与えるものであることを、実感させられました。山本悠尋先生は、終始この息子さんに焦点をあてて合唱指導をしておられるようでした。

ワークショップが終了した後、教育委員会の野尻湖支館ご担当・外谷真一様からは、「初めての開催で17名もの新しい方々が来られたのは画期的です。来年も是非いらしていただいて、同じような催しを続けていただきたい」と、嬉しいお言葉をいただきました。



■団員ミニコンサート、マリンパーク。撮影=団員・岡村 隆 (8/5)

ワークショップの興奮がさめやらぬ夜9時より、野尻レイクサイドホテル隣接のマリンパークで、恒例の「団員によるミニコンサート」が開かれました。独唱あり、合奏あり、合唱あり多彩なものでした。コンサートの出演者・演奏曲目は以下のとおりです。団員の村山英司さんのコメントによれば、18世紀前半の大バッハから20世紀のバーンスタインまでの広い時代にまたがっています。新しいものから時代を遡る順で紹介します(敬称略)。①独唱:S川合満里子、バーンスタイン「ウェストサイド・ストーリー」メドレー、②独唱:B室田悟・ピアノ伴奏A室田千晶、ヴェルディ「椿姫」アリア、③フルート二重奏:A風岡和子・B白井均、ケラー「ソナチネ」第1楽章、④四部合唱:S荒井せつ子・川合満里子、A風岡和子・田口博子、T宮城幸義、B白井均・久保庭重夫・加藤剛男、グノー「Ave Verum Corpus」、⑤独唱:T村山英司、モーツァルト「魔笛」タミーノのアリア「こんなきれいな人は」、⑥二重唱:A田口博子・B久保庭重夫、モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」村娘ツェリーナとドン・ジョヴァンニの二重唱「Andiamo」、⑦独唱:A田口博子、ビゼー「カルメン」から「ハバナラ」、⑧独唱:T小海基、バッハ「マタイ受難曲」第20曲「目覚めおらん イエスのもと」、最後に⑨全員で、団員の小海基作曲の讃美歌「二匹の魚と」(「讃美歌21」198、「改訂こどもさんびか」21、佐伯幸雄作詞)を斉唱し、終了しました。

団員の隠れた技倆・賜物を披露するもので、驚くほどレベルの高いもので感動し、これらが合唱にもっと生かされればと思ったものでした。「団員によるミニコンサート」が終わっても、自分の部屋に戻る者がほとんどなく、1つの部屋に集まって懇親会となりました。話題は文化論で、その中でも言語学者の田中克彦さん(団友、ときどきT団員)のおっしゃられた「異なる言語というものが、世界にひずみをもたらした」という発言は、現在の世界を考えるうえで、大いに参考となるものでした。

8月6日(土)の午後4時から、野尻湖国際村内の神山教会で、コンサート“湖畔のバッハ”が開かれ

野尻湖合宿に、初めての参加

千葉 光雄 (団員：バス)

野尻湖合宿の初日 (8月4日) は所用で出られず、翌日高速バスで長野に向かうが途中の混雑で予定の電車に乗れず、黒姫駅でタクシーに飛び乗り何とか2日目午後の練習に間に合った。練習会場は信濃町公民館野尻湖支館の3階。窓からは黒姫山の雄大な姿が見え壯観である。

夕方からのワークショップとミニコンサートに備え、石川優歌さんのピアノ、岡山ひかりさんのチェロ、山本悠尋先生の独唱、そして大村先生の指揮でたっぷり練習し、玄関先での記念撮影後、早い夕食をとりワークショップに。

屋外では徐々に日が山に隠れるころ、一般の参加者が三々五々集まってこられ、いよいよ午後6時半、山本先生のご指導によってワークショップの開始。熱心な発声練習で声が出始めたところで、カンタータ 147番のコラール《イエス わが喜び》を、ほとんどの参加者も、それぞれ数名ずつ、団員の各パートに混じって練習を行う。みなさん大きく口をあげ、真剣にそして楽しそうに歌われる姿はとても素敵であった。最後に全体で仕上げに歌ったが、なかなか素晴らしい出来だったと思う。

続けて合唱団員によるミニコンサート。カンタータ 81番、タバコの歌、石川さんのピアノ、そしてカンタータ 140番を団員と山本先生のソロで歌い、最後にワークショップ参加者を加えた全員で、練習したカンタータ 147番のコラール《イエス わが喜び》を歌い、プログラムは終了。ワークショップとミニコンサートについては、他の団員が詳しく書いておられるようなので割愛するが [月報9月号別冊、林貞敬 (団員：テノール)「野尻湖 2016 祝祭合唱団に参加して」参照]、初めての企画であったがとても素敵な企画であったと思う。大村健二さんによれば今日の合唱団は参加者も含めて「野尻湖 2016 祝祭合唱団」と称して来年以降もぜひ続けたいとの由。本当にそうあってほしい。

宿に帰り、ホテルの集会所でミニコンサート。多くの団員の多彩な芸と才能に感嘆。無芸大食の小生には



■ホテルの庭から、黒姫(左)と妙高(右)。撮影=団員・千葉光雄(8/6、7:39)

うらやましい限りである。終了後の余韻を楽しむように有志が湖畔のテーブルを囲んで飲み物を飲みながら歓談。そらんじている歌を自然に合唱したりしながら楽しい時を過ごす。最後には山本先生がオペラのアリアを何曲か歌ってくださり、その美声に酔いしれた。湖面に響く歌声と漆黒の夜空の星々に夢心地で寝床につく。

翌日は朝食後、午前中いっぱいホテルの練習会場で練習。女性たちは早朝練習もこなしておられ、すごいやる気を感じられる。

昼食後はホテルの車で演奏会の開かれる神山教会に向かう。素朴な木造りの教会に懐かしささえ感じる。(ちなみに私は今回初めての参加。理由は時々さまざまであったが省略します。)ここでも本番に備えて蝉しぐれと暑さの中の練習後、しばし休憩。

夕刻の演奏会開催時刻には、昨晚ワークショップに参加された方々を含め、国際色豊かに予想以上にたくさんの方々が席を埋め、午後4時加藤さんの司会で野尻湖演奏会“湖畔のバッハ”の開始。前半はカンタータ 81番《主イエス眠り いかによきわが望み》。冒頭の合唱は団員のリコーダーも加わり、アルトパートのアリア、そして山本先生のレチタティーヴォとアリアの独唱になると聴衆も引き込まれたように聞き入っている様子。2曲目は「アンナ・マクダレーナ・バッハの音楽帳」より《気晴らしに タバコ詰め》(パイプの歌)。ここで大村健二さんがユーモアを交えて陶製のパイプの写真を見せながら曲の解説をされると、場もぐんとほぐれ、楽しくも含蓄に富むバッハの曲が山本先生のソロや合唱を織り交ぜながら展開し会場を満たす。

ここで休憩。教会内はとても暑く、特に正装されている山本先生はたいへんな汗。思わず小生の使っていた扇子をお貸ししたほど。休憩後は、石川優歌さんのピアノ独奏で《フランス組曲》5番から3曲(クーラント、ガヴォット、ジグ)を演奏。やや癖のある(?)ピアノをうまく馴らし、バッハの世界が広がる。そして最後はカンタータ 140番《目覚めよと呼ばわる 物見の声高し》(個人的にはバッハのカンタータ中、3指に入る名曲と思う)。冒頭の合唱から聴衆のみなさんが



■野尻湖公民館でのワークショップ。撮影=団員・千葉光雄(8/5、19:25)

集中して聞き入っているのが感じられる。ソプラノの方々が練習を積んだ、バスの山本先生とのデュエット2曲も素晴らしい出来。そして最後のコーラルで締めくくる。聴衆からたくさんの拍手をいただいた後、昨日ワークショップで練習したコーラル《イエス わが喜び》(BWV 147/10)を聴衆と一緒に合唱して終了。聴衆の方々も(78名も参加とのこと)満足された様子で、たいへん素敵な野尻湖演奏会になったと思う。

ここで石川さんや岡山さん、松尾夫妻、そしてソプラノの須藤さんは帰途に。残りの者は、宿に戻り、夕食を兼ねた打ち上げ会となった。団員のみなさんの感想も、今回初めての試みのワークショップはとてもよかったという意見が多く、神山教会の演奏会も聴衆もたくさん来て下さり、とてもよい演奏会で楽しかったとの評価であった。

避暑地にしては毎日暑かったが、きれいな湖と雄大な山々に囲まれて、山本先生や合唱団のメンバーそして当地のバッハの好きな方々と過ごした時間は私にとって忘れ難いものになった。

新・刊・紹・介

金持ちは、なぜ高いところに住むのか ——近代都市はエレベーターが作った

アンドレアス・ベルナルト著

井上周平／井上みどり・訳(柏書房・2016年6月刊)

大村 恵美子(主宰者)

数十年も変わらぬ野尻湖畔での合宿・コンサートを終え、ブラジルでのオリンピック実況をテレビで毎日とつぷりと見る傍ら、この学術論文の400頁にも及ぶ本を読んでみた。著者(1969年生)はミュンヘン大学から始めて、現在はリューネブルク大学教授で、この本は2005年にヴァイマル大学で受理された博士論文をベースとしたものとのこと。現代の高層ビル建築におけるエレベーターの意義をめぐって、間口の広い文化論を展開しているが、何かと散漫であることは、訳者あとがきでも指摘されているとおりである。

私が、この本のタイトルにひかれたのは、実際にはかなりずれた興味からだったことはわかる。しかし、かねがね気にしていたことがらではあった。東京でも最近、高層ビルを住居とする人口もふえて来て、地震・火事など、事故の際の危険という課題として、メディアでも多く扱われて来ている。私自身は、原始的な自然を努力して保存しつづけるのが観光業の主目標と信じ(野尻湖はその点で地元の方々の心意気が大変高く感じており、その結果、合唱団成立後、8月の3泊4日程度の滞在が、今年で41回[コンサートのなかった年を数えると、それ以上]にも達している)、そしてまた、人類の肉体的発達、はたして鍛錬だけでこんな

に年ごとに進むものなのだろうか、という疑問が、オリンピックなどの世界競技を見るたびに、大きなものとなってくるのだ。

そんなわけで、この本は、直接、私的を得た内容ではなかったのだけれど、人間が生きるうえで、成長期を、地面よりもはるかに高いところすごし、住居の窓から空に接続する眺望を目にしながら寝起きすると、性格的・心理的にどんな影響を受けるのかどうか——むしろ、私の中心の関心は、このような点にあったのだ。私も、数十階のビルのレストランに行ったり、マンションの5階に住んだこともあるが、いろいろな面で、人間味が損なわれてゆくような、危惧を感じていた。元来人一倍自然児に近いような私であるが、モダンになるというのは、“バベルの塔”化する意図があるようで、自分自身をひとよりも高く感じたり、土を遠ざかることで根本的な劣化をこうむってしまうのではないか、など、ここいらで、部分的な数字の表示は目にすることもあるけれど、もっとまとまった意見を改めて教わりたく思っている。

<予告>

荻窪教会クリスマスコンサート

日時=12月17日(土)、午後2時開演

会場=荻窪教会(入場無料)

- ・『アンナ・マクダレーナ・バッハの音楽帳』より(2曲)
(かたえに 主いませば) (わが主み神 われ歌わん)
- ・カンタータ《われ 足れり》BWV 82
- ・《口短調ミサ曲》のなかのクリスマス音楽(6曲)
(グローリア) (地に平和) (み神に謝しまつらん) 他
Ob、Vn、VC、Orgと合唱・斉唱を予定

<予告>

第115回定期演奏会

日本語版《口短調ミサ曲》、2017年秋・再演!!

＝参加団員募集＝

6月号月報巻頭「急告」に記されたとおり、来年の創立55周年は、内外の合唱界に衝撃をあたえた「《口短調ミサ曲》日本語版」の再演をもって記念することとなりました。

あわせて宗教改革500周年の年、バッハの老舗合唱団としては、敢えてルターの詩によるカンタータを撰ばず、ミサ通常文をテキストとした、バッハ畢生のミサ曲をもって、作曲家自身が極めた“普遍”の魂を歌い上げようとしています。ぜひご参加ください。

○上演時期：2017年10月/11月頃(杉並公会堂、予定)

○練習開始：2016年9月3日(土)、5日(月)より。

年末の第114回定期演奏会の曲目と並行して、音取り練習を始めます。

○問合せ/申込み=東京バッハ合唱団事務局。使用楽譜のことなど、お気軽にお問い合わせください。